



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

Effect of Autism Spectrum Traits on Individual Differences in Humor Experience for Owarai

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 越井,美紗, 関口,貴裕 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00173555

自閉症スペクトラム傾向が お笑いに対するユーモア体験の個人差に与える影響

越 井 美 紗*¹・関 口 貴 裕*²

学校心理学分野

(2021年9月13日受理)

1. 問題と目的

1. 1 ユーモア生起に影響する要因

ユーモアとは特定の刺激によって生起する、「おもしろい」「おかしい」など、一過性の愉悦 (mirth) の情動体験であり、人々の社会的な営みや心身の健康などに対し多様な役割を果たしている (伊藤, 2009)。ユーモアを喚起する刺激には、ジョークや漫画など様々なものがあるが、なかでも漫才やコント、漫談、モノマネなど、現代的な笑いの話芸である「お笑い」は、テレビや劇場、インターネット動画など、様々なメディアで楽しまれており、また単なる娯楽を超えて、気晴らしや自ら演じて人を楽しませるなど多様な使われ方で現代の生活の重要な一部となっている (長谷川・中村, 2020)。このため、お笑いがどのようにユーモアを喚起するかの検討は、感情心理学やコミュニケーションの心理学における重要な研究テーマと言える (e.g., 岡本・大庭・榎本・飯田, 2008)。このお笑いについては、同じ演目や「ネタ」を見たとしても、それを面白いと思う人もいれば、つまらないと感じる人もいるように、どのような内容にユーモアを感じるかに個人差があることが経験的に知られている。これをふまえて本研究では、お笑いに対するユーモアの感じ方に影響する個人特性を漫才やコントなどのお笑い動画を刺激に用いて検討した。

ユーモアの生起過程について伊藤 (2009) は、認知的評価理論の枠組みから、ユーモアは構造的な不適合 (structural incongruity)、すなわち、ある出来事が常識や一般知識と異なる状況であると評価される際に感じ

ると論じ、この構造的な不適合を「概念レベル」と「スキーマレベル」の2種類に分類している。概念レベルの構造的な不適合とは、状況を構成する個々の要素はおかしさではないが、要素同士の関係性が不適合な状況のことである。例えば、以下のようなやりとりが例としてあげられる。

Aさん「僕のペンはどこにある？」

Bさん「君のポケットの中にあるよ」

Aさん「そっか、ありがとう」

(ポシェットの中を探す)

Bさん「ポシェットじゃなくてポケット！」

このとき、「ポシェットの中を探す」という行為自体は不可解な行為ではないが、Bさんが「ポケットの中にある」ことを教えてあげているという前提があることで、「ポシェットの中を探す」という行為は不適合な行為と判断される。概念レベルの構造的な不適合はおかしさを言語的に説明することが可能で、それを感じるためには状況全体を把握して理解する必要がある。お笑いで言うと、ボケとツッコミという関係性や、フリがあってオチがあるという全体の流れからユーモアをもたらす漫才やコントが、概念レベル的なお笑いだと言える (伊藤, 2009)。一方でスキーマレベルの構造的な不適合とは、状況を構成する要素そのものに不適合があることをいう。そこでは要素間の因果関係からおかしさを感じるわけではなく、それぞれの行為や台詞、状況自体におかしさを感じる。スキーマレベルの構造的な不適合は見たただけでおかしいと判断できる

* 1 東京学芸大学大学院 教育学研究科

* 2 東京学芸大学 教育心理学講座 学校心理学分野 (184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1)

ため、瞬間的で比較的単純なものが多い。お笑いと言うならば、ドタバタ劇や一発芸など、脈略と関係なく奇想天外なことが生じ、ユーモアを生起させるものがスキーマレベルのお笑いだと言える。

また、ユーモアの生起に影響するもう一つの要因として、伊藤 (2009) は「意味性」(無意味性) の評価を指摘している。意味性とはユーモアの内容が個人的・社会的に深刻あるいは重要であることであり、意味性があると評価された場合は、その対象に対しユーモアだけでなく、恐怖や怒り、興味などの他の感情が生起するため、ユーモアが低減される。例えば、滑って転んだ人を見た際に、その人が頭から血を流していたら、それは深刻なものとなり、ユーモアを感じにくくなるだろう。これらをふまえて考えると、ユーモア刺激としてのお笑いは、構造的な適合の種類 (概念レベル、スキーマレベル) と意味性の高低により、そのタイプを大きく4種類に分類することができるだろう。

1. 2 ユーモア体験の個人差と自閉症スペクトラム障害

一方で、ユーモア刺激に関し、どのような内容をおもしろいと思うかには個人差があることが従来から知られ、性別や知能、性格などそれに影響する個人特性について様々な検討が行われてきた (Galloway, & Chirico, 2008; Terry, & Ertel, 1974; Moran, Rain, Page-Goul, & Mar, 2014)。このうち、特に特徴的なユーモアの感じ方を有するのが自閉症スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorder, 以下ASD) をもつ人々である (Lyons & Fitzgerald, 2004)。永瀬・田中 (2015) は、11~24歳のASD者19名を対象に、ユーモアの感じ方が定型発達者とどのように異なるのかを明らかにするため、上述した2種類の構造的な適合に対するASD者のユーモア体験に関する研究を行った。刺激は2コマの漫画であり、1コマ目が共通の絵柄で、2コマ目をスキーマレベルの構造的な適合に当たる内容としたものと、同じく2コマ目を概念レベルのそれに当たる内容としたものの2種類を1つのペアとして、ユーモアを体験した程度を比較した。その結果、定型発達者では概念レベルの刺激の方がスキーマレベルの刺激よりもユーモア体験の平均評定値が高かったのに対し、ASD者では両刺激でユーモア体験の評定値に差はなかった。また、ASD者は定型発達者に比べて、概念レベルの構造的な適合にそれほどユーモア体験を強く感じないことが示された。

さらに永瀬・田中・川住 (2014) は、意味性の評価がユーモア体験に与える影響をASD者と定型発達者で

比較している。刺激には、スキーマレベルの構造的な適合が含まれる写真画像10種類を使用し (例: お弁当の中央にご飯があり、その周囲一杯に梅干しが敷き詰められている写真)、それに対し感じるユーモアの程度と意味性の評価を測定した。その結果、定型発達者では、意味性の評価がユーモアを感じる程度に負の影響を与えるのに対し、ASD者では正の影響を与えること、すなわちASD者は意味性を強く感じるほどユーモア体験が強くなることが明らかになった。このことから、意味性がユーモア体験に与える影響がASD者と定型発達者で異なることが示唆された。このように、ASD者では、構造的な適合の種類と意味性でユーモア刺激を分類した場合に、どのような刺激にユーモアを強く感じるかが定型発達者と異なることが見出されている。

1. 3 本研究の目的

ところで、ASDの特性は臨床群としてのASD者に特有のものではなく、定型発達者の中にもコミュニケーションが苦手などの自閉症スペクトラム傾向 (Autism Spectrum Traits, 以下AS傾向) を有する者がいることが分かっている。例えば、若林・東條・Baron-Cohen・Wheelwright (2004) は、ASDの臨床的スクリーニングに用いられる自閉症スペクトラム指数 (Autism Spectrum Quotient; Baron-Cohen, Wheelwright, Skinner, Martin, & Clubley, 2001) の日本語版 (以下AQ尺度) を作成し、それを成人や大学生に回答してもらっている。その結果、AQ尺度の得点に広ばらつきが見られ、定型発達者の中で、AS傾向は連続性をもつ特性であることが確認された。このことから考えると、こうした定型発達者におけるAS傾向の高低もまたユーモアの感じ方に何らかの影響を与えている可能性が考えられる。実際、いくつかの研究はAQ尺度で測定したAS傾向 (特にSocial Skillの因子) が、ユーモア刺激に感じるユーモアに負の影響を与えることや (Nagase, 2019)、ユーモア刺激への不快感に正の影響を与えること (Rawlings, 2013) を報告している。しかし、これらの研究は、ジョークやユーモラスな状況を記した文章を刺激としたものであり、本研究で検討するお笑いを感じるユーモアにAS傾向が与える影響を調べたものではない。また、構造的な適合の種類や意味性の高低がAS傾向とどのように関係し合いながらユーモアの感じ方に影響を与えるかを調べたものでもない。そこで本研究では、お笑いが喚起するユーモアに影響する要因を個人特性の面から明らかにするために、お笑いのタイプとユーモアの関係にAS傾向がどのよう

な影響を与えるかを定型発達者を対象に検討する。具体的にはユーモア刺激として、漫才やコントなどのお笑い動画を用い、それらの構造的不適合の種類（概念レベル、スキーマレベル）と意味性（高、低）の違いにより、ユーモア評価の得点に差異が生じるか、そして、それがAS傾向の高低によりどのように変化するかを検討する。

1. 4 仮説

本研究では、AS傾向が高いほど、発達障害としてのASDに近い特性をもつことを踏まえ、永瀬・田中（2015）、永瀬他（2014）より、以下の4つの仮説を設定する。

仮説1) AS傾向が低い人では高い人に比べ、概念レベルの不適合を含むお笑いのユーモア得点が高くなる。

仮説2) AS傾向が低い人は、スキーマレベル不適合の刺激より概念レベル不適合の刺激の方でユーモア得点が高くなるのに対して、AS傾向が高い人ではこうした構造的不適合のちがいによるユーモア得点の差が見られない。

仮説3) AS傾向が低い人は、意味性が高いお笑いでは、意味性が低いお笑いに比べ、ユーモア得点が低くなる。

仮説4) AS傾向が高い人は、意味性が高いお笑いでもユーモア得点は低下せず、むしろ上昇する。

2. 方法

2. 1 実験参加者

関東圏内に住む大学生、大学院生等63名（18歳～25歳、平均21.0歳、SD = 1.3）であった。参加者には謝礼として500円分の図書カードを渡した。なお、本研究は東京学芸大学研究倫理委員会の承認を得て行われた（承認番号347）。

2. 2 刺激

実験で使用する刺激動画には、プロのお笑い芸人1人または1組がコントや漫才などをする2～4分程度の動画（テレビ番組から録画したもの）を使用した。それらは以下の手順で作成した。

まず、テレビのお笑い番組16本（付録を参照）の録画に含まれる漫才やコント等192本から、筆者の主観で、構造的不適合の種類（概念レベル・スキーマレベル）×意味性（高・低）の各条件につき10本となるように40本を選定し、それを個別の動画として切り出し

た。その上で、各動画を大学生17名に見てもらい、それらの概念レベル、スキーマレベルの構造的不適合の程度、ならびに意味性の程度を評定してもらった。評定は1日1時間程度、3日に分けて個別形式で実施した。動画の再生順はランダムに設定し、参加者ごとに異なるようにした。

各動画の概念レベル、スキーマレベルの構造的不適合の評定は、伊藤（2009）に記されたそれぞれの不適合の特徴や例示を漫才やコントのおかしさに当てはめて作成した各5項目からなる「概念レベル尺度」と「スキーマレベル尺度」を用いて行った。概念レベル尺度の評価項目は「ある状況でありえないやり取りをしているおかしさ」「登場人物が予想に反する行動をするおかしさ」「ストーリー仕立てで、1つの物語になったおかしさ」「ツッコミによって生じるおかしさ」「少し前の場面の出来事や言動が、後の場面につながることで生じるおかしさ」の5つであり、スキーマレベル尺度の評価項目は「シュールなおかしさ」「一発芸・ギャグによるおかしさ」「ダジャレなどの言葉遊びによるおかしさ」「モノマネによるおかしさ」「誰かが異様な行動をしているおかしさ」の5つであった。どちらの尺度も、それらが動画中の漫才やコントにどの程度含まれていたかを5件法で測定するものであった。

各動画における漫才やコント等の意味性の評定には、伊藤（2009）に記された意味性（無意味性）の定義や例示を漫才やコントで扱われる内容に当てはめて作成した尺度を用いた。尺度項目は、「見ている人の自尊心を傷つける」「人のコンプレックスを題材にしている」「見ている人に（笑い以外の）喜びを感じさせる」「倫理的に問題がある」「社会的なルールに反している」「社会的に注目される内容を含んでいる」「社会的に重要な情報を含んでいる」「自分に関係する重要な内容だと感じる人がいる」「自分に有益な情報だと感じる人がいる」の9つであり、それぞれについて、動画中の漫才やコントが当てはまる程度を5件法で回答するものとした。

得られた結果は以下の手順で得点化し、それをもとに実験で使用する刺激動画を選定した。まず、概念レベル尺度およびスキーマレベル尺度では5項目のうち、「4. わりと含まれていた」「5. かなり含まれていた」に回答していた項目の数、意味性尺度では9項目のうち、「4. わりと当てはまる」「5. 当てはまる」に回答していた項目の数をそれぞれの尺度得点として算出した。そのうえでこれらの得点を全評定者間で平均したものをその動画の概念レベル得点、スキーマレベル得点、意味性得点とし、これらの得点をもとに「概念レ

表1 実験で使用する刺激動画とその特性

構造的不適合の 種類	意味性	芸人名	タイトル	概念レベル 得点	スキーマ レベル得点	意味性得点	時間 (分:秒)
概念レベル	低	四千頭身	やりたいこと	3.47	1.88	0.47	3:01
		ハナコ	結婚式	4.35	1.53	0.71	3:33
		金属バット	お見合い	2.35	1.24	0.65	3:05
	高	パーパー	誕生日会	3.65	1.41	1.41	2:06
		吉住	時をかける少女	2.65	1.24	1.12	3:11
		スーパーマラドーナ	電話	3.65	1.88	1.29	3:41
スキーマレベル	低	サンシャイン池崎	あるある男子	1.06	2.00	0.53	1:42
		天竺鼠	ため息	1.47	1.88	0.24	2:56
		TT兄弟	Tを探そう	0.41	2.24	0.59	3:23
	高	ゆんぼだんぶ	爆笑の一撃	0.24	2.65	1.06	1:54
		アキラ100%	絶対に見せないでShow	0.29	2.12	1.29	1:57
		ジェラードン	深夜のオフィス	2.06	1.76	1.00	3:54

ベル・意味性高」「概念レベル・意味性低」「スキーマレベル・意味性高」「スキーマレベル・意味性低」の4条件に当てはまる動画をそれぞれ3本、計12本選定した。概念レベル条件の動画は概念レベル得点がスキーマレベル得点よりも有意に高いもの、スキーマレベル条件の動画はスキーマレベル得点が概念レベル得点よりも有意に高いものをそれぞれ選択した（本数をそろえるため、スキーマレベル条件用に有意差がないものも2本選択した）。意味性については、当てはまる項目が1つでもあれば意味性があると判断できるため、意味性高条件には意味性得点が1点以上のもの、意味性低条件には1点未満のものを選択した。選定した刺激動画とその特性を表1に示す。

2. 3 ユーモア測定尺度

刺激動画に感じるユーモアの測定には、野村・丸野(2006, 2008)が落語の評価に用いた尺度を使用した（以下ユーモア尺度）。評価項目は「面白かった」「笑った」「分かりやすかった」「印象に残った」「話に引き込まれた」「『なるほど』と感じた」「『そんなあほな』と感じた」の7つであり、あてはまる程度を5段階の両極尺度で測定するものであった。ユーモア尺度は刺激動画ごとに用意し、質問紙の形で提示した。質問紙には、この他、登場する芸人を知っている程度や、刺激動画のどこが面白かったかを聞く尺度が印刷されていたが、紙幅の都合上、詳細と結果の説明は割愛する。

2. 4 手続き

実験では、初めに参加者にAS傾向を測定するAQ尺度（若林他, 2004）に回答してもらった。実験は練習1試行+12試行からなり、各試行では、参加者に1本の動画をノート型コンピュータの15インチ画面で視聴し

てもらい、その後、ユーモア尺度等に回答してもらった。参加者には、動画視聴の途中で質問紙に回答しないこと、視聴中は笑っても笑わなくてもよく、リラックスして自由に視聴して欲しいことを注意事項として伝えた。動画の提示順はランダムに設定し、参加者ごとに異なるようにした。すべて終わるまでの時間は約1時間であった。

3. 結果

全63名のデータのうち、AQ尺度、ユーモア尺度のいずれかに欠損値があった7名のデータを除いた56名分のデータを分析に使用した。

3. 1 AQ尺度得点

AQ尺度得点は、若林他(2004)に従い、各項目においてAS傾向を示す側である、「3. あてはまる」「4. どちらかといえばあてはまる」という回答が得られた場合に1点を与え、その合計を得点とした（範囲0～50点）。本実験のAQ尺度得点の平均は20.05、標準偏差は6.82であり、若林他(2004)の結果と同等の数値であった。なお、AQ尺度では、33点以上の場合には臨床的な障害となりうる水準のAS傾向をもっていると判断される。今回の結果では、56名中53名が33点未満を示していたため、参加者はほぼ定型発達者だったといえる。また、33点以上は3名と少数であったため、その回答も含めて分析を行うこととした。

3. 2 ユーモア尺度得点

ユーモア尺度得点は、各項目の回答を1～5点に数値化し、7項目の合計点を得点とした（範囲7～35点）。本研究は、AS傾向（高・低）×構造的不適合の種類（概

念レベル・スキーマレベル) × 意味性 (高・低) の3要因がユーモア尺度得点に与える影響を調べるものであった。しかし、これらの要因はいずれもAQ尺度得点、概念レベル・スキーマレベル得点、意味性得点という連続的な値で定義されている。そこで、交互作用項を用いた重回帰分析の手法により、それぞれの要因の主効果、交互作用を検定することとした。その際、構造的不適合の種類と意味性の要因は参加者内要因であることから、分析はマルチレベル分析 (階層線形モデリング) で行った。分析には統計解析ソフトHAD version16.102 (清水, 2016) を使用し、最尤法でモデルの推定を行った。また、分析の際には通常の標準誤差ではなく、頑健標準誤差を用いた。分析を行う前に、刺激動画の構造的不適合の種類を表す2つの変数 (概念レベル得点とスキーマレベル得点) を1つの変数にするため、概念レベル得点からスキーマレベル得点を引いた値を算出し、それを概念レベル度として分析に使用することとした。その上で、AQ尺度得点、概念レベル度、意味性得点を独立変数、ユーモア尺度得点を従属変数として分析を行った。その際、レベル1変数である概念レベル度、意味性得点については、集団平均で中心化したデータを使用した。また、モデル推定に際し、これら2変数およびその交互作用項には変量効果を仮定した。

分析の結果を表2に示す。概念レベル度の主効果 ($B = 0.99, p < .001$)、概念レベル度 × 意味性得点の交互作用 ($B = -1.74, p < .001$)、AQ尺度得点 × 概念レベル度 × 意味性得点の交互作用 ($B = 0.08, p = .045$) が有意であった。AQ尺度得点 × 概念レベル度 × 意味性得点の交互作用が有意であったため、下位検定として、各要因の単純傾斜分析を条件ごとに行った (図1)。その際、AQ尺度得点、概念レベル度、意味性得点の高低は、それぞれの得点の+1SD, -1SDの値を用いて定義した。

まず、刺激動画の意味性得点が低い場合に注目すると、お笑い動画の概念レベル度が高い場合において、AQ尺度得点の効果が有意であり、AQ尺度得点が高い人の方が高い人に比べ、ユーモア尺度得点が高くな

表2 ユーモア尺度得点に対する各要因の効果

	<i>B</i>	標準誤差	<i>t</i> 値
切片	24.58	0.45	54.41 **
AQ尺度得点	-0.07	0.07	-0.96
概念レベル度	0.99	0.12	8.38 **
意味性得点	0.26	0.48	0.55
AQ尺度得点 × 概念レベル度	-0.02	0.02	-1.13
AQ尺度得点 × 意味性得点	0.01	0.07	0.18
概念レベル度 × 意味性得点	-1.74	0.35	-4.96 **
AQ尺度得点 × 概念レベル度 × 意味性得点	0.08	0.04	2.06 *

注) *B*は非標準化推定値。 * $p < .05$, ** $p < .01$

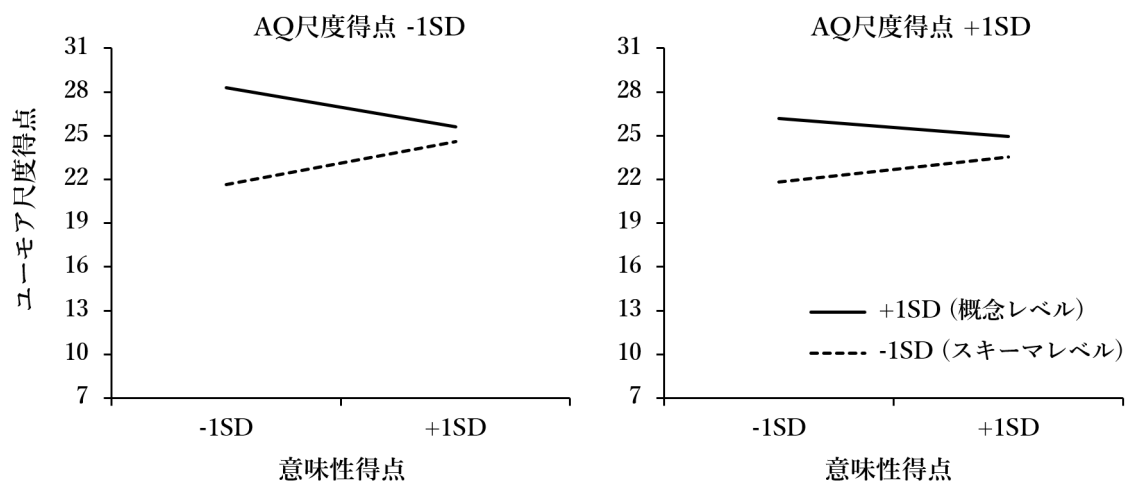


図1 ユーモア尺度得点に対するAS傾向 (AQ尺度得点), 構造的不適合の種類 (概念レベル度), 意味性の効果

っていた ($B = -0.16, p = .007$)。一方で、概念レベル度が低い場合では、AQ尺度得点が高い人と低い人で、ユーモア尺度得点に有意な変化はみられなかった ($B = 0.01, p = .921$)。

また、概念レベル度の効果については、AQ尺度得点が高い人 ($B = 1.96, p < .001$)、高い人 ($B = 1.29, p < .001$) とともに有意であり、概念レベル度が低い動画より、高い動画の方が、ユーモア尺度得点が高くなっていた。これは、前の結果と合わせると、AQ尺度得点が高い人と高い人で、どちらも概念レベル度の効果はあるが、その効果はAQ尺度得点が高い人の方が、高い人よりも大きいことを意味している。

次に、意味性得点が高い場合に注目すると、概念レベル度が高い場合 ($B = -0.05, p = .526$)、低い場合 ($B = -0.08, p = .398$) とともに、AQ尺度得点の効果は有意でなかった。また、概念レベル度の効果は、AQ尺度得点が高い人も ($B = 0.30, p = .14$)、高い人も ($B = 0.41, \text{ただし } p = .062$)、どちらも有意ではなかった。

最後に、意味性得点の効果に注目すると、AQ尺度得点が高い人では、概念レベル度が高い場合に、意味性得点が高い場合の方が低い場合に比べ、ユーモア尺度得点が高くなっていた ($B = -3.66, p < .001$)。それに対して、概念レベル度が低い場合では、意味性得点が高い場合は低い場合に比べ、むしろユーモア尺度得点が高くなっていた ($B = 4.02, p < .001$)。一方、AQ尺度得点が高い人では、概念レベル度が低い場合において、意味性得点が高い方がユーモア尺度得点が高いのは同じであるが ($B = 2.38, p = .039$)、概念レベル度が高い場合では、意味性得点が高い場合と低い場合で、有意な変化は見られなかった ($B = -1.69, \text{ただし } p = .070$)。

4. 考察

本研究の目的は、定型発達者のAS傾向の高低がお笑い動画に対するユーモアの感じ方にどう影響を与えているかを、構造的不適合の種類ならびに意味性が異なる4条件のお笑い動画を刺激に明らかにすることであった。以下、得られた結果について考察する。

4. 1 AS傾向と構造的不適合の種類

本研究の結果、意味性が低いお笑いの動画において、1) 概念レベル度が高いお笑いでは、AQ尺度得点が高い人の方が、高い人よりもユーモア尺度得点が高くなること、2) AQ尺度得点が高い人も高い人も、概念レベル度が高いお笑いの方が、低いお笑いよりもユーモア

ア尺度得点が高くなることが示された。AQ尺度得点はAS傾向の高さの指標であり、概念レベル度はその値が高いほど概念レベルの構造的不適合によるお笑い、低いほどスキーマレベル不適合のお笑いであることを意味する。ここから、結果1) より、意味性が低く、かつ概念レベル不適合によるお笑いでは、AS傾向が低い人の方が、高い人よりも、ユーモアを感じていたと言える。これは、仮説1と一致する結果であった。

一方、結果2) より、AS傾向の高さに関わらず、概念レベル不適合のお笑いの方がスキーマレベル不適合のお笑いよりもユーモアを感じることを示された。これは、AS傾向の高い人では、構造的不適合の種類はユーモアに影響しないという仮説2とは異なる結果であった。しかし、結果1) と結果2) をあわせて考えると、AS傾向が低い人と高い人で、どちらも構造的不適合の種類の効果はあるが、その効果はAS傾向が低い人の方が大きいということが示された。このことから、AS傾向の違いは、概念レベル不適合のお笑いとはスキーマレベル不適合のそのユーモアの差の有無ではなく、ユーモアの差の程度に影響することが示されたと言える。

この結果について考察すると、まず、概念レベル不適合のお笑いの方がスキーマレベル不適合のそれよりもユーモアを感じたという結果については、先行研究(永瀬・田中, 2015)の定型発達者の結果とも一致している。この結果について永瀬・田中(2015)は、概念レベルの不適合とスキーマレベルの不適合で、刺激に対する「精緻化」の程度に違いがあり、それがユーモアの強さに影響したことを示唆する結果を得ている。精緻化とは、ユーモア生成の骨格となる論理の流れの理解に、登場する人物の心情や物の特徴を推測したり、これから起こることを予測したりするなどして肉付けをすることであり(Wyer & Collins, 1992)、精緻化を多くすることがユーモアの増幅につながることを示されている(野村・丸野, 2008)。本研究における概念レベルのお笑い動画は、フリがあつてオチがある内容や、物語が展開することで笑いが生み出されている構成であるため、この先どうなるのだろうという期待感などが強く起こり、精緻化が行われやすかったと推測される。一方で、スキーマレベルのお笑い動画は、唐突な展開や、よくわからないという印象を受ける内容であるため、人物に共感しにくく、精緻化も行われにくかったと考えられる。このように本研究においても、こうした精緻化の程度の違いが、AS傾向に関わらずお笑い動画に感じるユーモアの強さに影響した可能性が考えられる。この可能性については、今後、そ

れぞれのお笑い動画に対する精緻化の程度を評定する質問を用いたさらなる検討が必要である。

次に、永瀬・田中（2015）では、ASD者は概念レベル不適合とスキーマレベル不適合の間でユーモアの強さに差がなかったのに対し、本研究では、AS傾向が高い人でも、概念レベル不適合のお笑いの方がスキーマレベル不適合のそれに比べユーモアが強く感じられていたこと、ならびにAS傾向が低い人では、その効果がより強くなっていたことについて考察する。この結果は、AS傾向が、発達障害としてのASDを一方の極として連続的に変化する特性であることから考えると、概念レベル不適合によるお笑いを感じるユーモアが、AS傾向の低下に反比例する形で強くなることを意味している。このことから、ASD者やAS傾向が高い人が持つ認知特性が、特に概念レベル不適合のお笑いの認知過程に影響し、ユーモアを感じにくくさせていることが示唆される。

では、AS傾向が高い人は、なぜ概念レベル不適合のお笑いに対し、ユーモアが弱くなるのであろうか。臨床群としてのASD者がもつ特性に「弱い中枢性統合」(weak central coherence)がある。中枢性統合とは、複数の情報を関連づけて全体を理解することであり、ASD者はこの力が弱く、全体よりも細部に注目しがちであることが知られている (Happe, 1995)。そして、同様の細部への注目の高さは、定型発達者におけるAS傾向の高い人でも認められる (若林他, 2004)。概念レベルのお笑いは話の前後のつながりや全体の流れを把握して、構造的な不適合を理解しなければならない。しかしAS傾向が高い人は、こうした中枢性統合の弱さがあることで、1つのセリフや1場面のみ注目しがちであり、AS傾向の低い人に比べ、話全体をくんだ概念レベルの構造的な不適合に注目する度合いが低く、それがユーモアの低さに繋がったのではないかと考えられる。また、概念レベル不適合のお笑い動画は、心情を言葉でなく表情で表現することや、実際に存在していない人の心情や行動をある程度想像することで生み出されるおかしさを含んでいた。AS傾向の高い人には、相手の気持ちを推測したり、表情から気持ちを読み取ったりすることなど、社会的スキルやコミュニケーション、想像力の弱さが見いだされているが (若林他, 2004)、こうした特性が背景となり、登場人物の心情やそこにいない人の様子を想像しづらかったため、AS傾向の低い人に比べ精緻化が行われず、ユーモアがあまり増幅されなかった可能性も考えられるだろう。

このように、ASD者を対象とした研究と、本研究

の結果の違いは、AS傾向がASDから連続的に変化する特性であることを反映すると考えることで説明できる。ただし、先行研究と本研究では、漫画とお笑いのようにユーモアを喚起する刺激の点でも異なっている。したがって、概念レベル不適合のお笑いを感じるユーモアとAS傾向の関係については、お笑い動画を刺激とした検討をASD者を対象に行い、本研究の結果が障害としてのASDとAS傾向の違いを反映したものか、それともお笑いに特異的なものかを確認する必要があるだろう。

4. 2 AS傾向と意味性の高さ

また本研究では、3) AQ尺度得点が低い人は、概念レベル度が高い場合、意味性得点が低い場合よりも高い方が、ユーモア尺度得点が低くなることが示された。この結果は、AS傾向が低い人は概念レベルの不適合によるお笑いにおいて、その意味性が高いとユーモアが低減することを意味している。これは仮説3を支持するものであった。概念レベル不適合による、意味性の高いお笑いに使用した動画は、攻撃的な表現が多かったり、法に触れる行動を行う人物が登場したりするものであった。そのため、純粋なユーモアのみが生起するのではなく、登場人物の行動に恐れや戸惑いなど不快な感情も引き起こされることで、ユーモアが低減したのだと考えられる (伊藤, 2009)。一方で、4) AQ尺度得点が高い人では概念レベル度が高いお笑いに対し、意味性得点の効果が見られなかった (p値は有意に近い値であったが、効果があるとしてもAS傾向が低い人に比べ小さいものであった)。ここから、AS傾向が高い人は、概念レベル不適合のお笑いで意味性が高くなったとしても、それほどユーモアが低減されないことが示唆される。この結果は、AS傾向が高い人では意味性が高い方がユーモアを感じるという仮説4を支持しないものであったが、意味性の効果に違いが見られたという点で、やはりAS傾向がお笑いを感じるユーモアに影響することを示したと言える。先行研究において永瀬他 (2014) は、ASD者の意味性の効果が定型発達者のそれと逆であることについて、ASD者は他者に対する共感を行わないで道徳を判断するという知見 (Hiervelä & Helkama, 2011; 神尾・十一, 1998) から解釈を行っている。本研究におけるAS傾向が高い人についても、そうした傾向があったために、攻撃的な行動や非道徳的な行動に対し登場人物への共感が起こりにくく、それを通じた不快な感情も生じにくかったため、ユーモアの低減が起らなかったのかもしれない。

また一方で、5) AQ尺度得点が低い人も高い人も、概念レベル度が低い場合は、意味性得点が低い場合より、高い方が、ユーモア尺度得点が高くなる結果も示された。この結果は、スキーマレベルの不適合を含むお笑いについては、AS傾向に関わらず意味性が高くなるほどユーモアを感じやすくなることを意味している。これは、同じくスキーマレベルの不適合をもつユーモア刺激を用いながら、定型発達者は刺激の意味性が高くなるとユーモアが低減するという永瀬他(2014)と異なる結果であった。また、伊藤(2009)が想定する意味性の効果とも逆の結果である。この矛盾については、ユーモア刺激の文脈の違いによって説明できるかもしれない。本実験で意味性が高いスキーマレベルのお笑いに使用した動画は、いわゆる裸芸が多く、伊藤(2009)が示した意味性の4つの条件の中で、「社会的な規範から逸脱したもの」という要素が特に含まれていた。一方、永瀬他(2014)で意味性が高かった写真は、「お弁当箱の中央にご飯があり、その周囲一杯に梅干しが敷き詰められている写真」「乗馬をした女性がファーストフードのドライブスルーを通る写真」「ダイビングをしている男性とサメがハイタッチしている写真」などであり、やはり社会的な規範や常識から逸脱したものが多かった。しかし、同じ逸脱した行為であっても、お笑いの場合は、お笑い番組という多少規範から外れたことをしても許される文脈のもとでそれが行われている。こうした文脈のもとでは、単に“くだらない”お笑いよりも、多少の意味性があり、他の感情を喚起させるものの方がユーモアを感じさせたのかもしれない。これに対し、永瀬他(2014)の刺激写真にはそうした文脈はなく、実験参加者は現実場面での状況を想定して刺激を評価したと考えられる。こうした文脈の違いが、ユーモアに対する意味性の効果を違うものにしたと推測する。このことから、ユーモアの生起過程についてユーモア刺激が提示される文脈を要因にいて考える必要性が示唆されるが、これがお笑いに特異的なことか、またどのような文脈がどのようにユーモアに影響するかは、今後の研究の中で検討する必要がある。

なお、6) 概念レベル度が低いお笑い動画に対する意味性の効果はAQ得点高群と低群で同程度であった。ここから、スキーマレベルの不適合によるお笑いは、AS傾向高群と低群で同じくらいユーモアを感じることができるとお笑いであることが見出された。

5. 結論

本研究の大きな目的は、お笑いに対するユーモアの感じ方の個人差に影響を与える要因を明らかにすることであった。本研究では、AS傾向によって、概念レベルの構造的な不適合によるお笑いに対するユーモアの感じ方に違いが生じることと、概念レベル不適合のお笑いにおける意味性の効果が異なることが明らかとなった。ここから、お笑いに対するユーモアの感じ方の違いにAS傾向が影響を与えていることが示された。一方で、先行研究では性別や性格などによってユーモアの好みが分かれることも指摘されている(Galloway, & Chirico, 2008; Terry, & Ertel, 1974; Moran, et al., 2014)。今後は、他の特性とAS傾向を組み合わせた検討をさらに行うことで、お笑いに対するユーモアの個人差がどのように生じてくるのかを、より明確にすることができよう。また、本研究の結果がどこまでお笑いに特異的なものかを他のユーモア刺激と比較しながら検討することで、お笑いにユーモアを感じるメカニズムをより深く理解することができると考えられる。

引用文献

- Baron-Cohen, S., Wheelwright, S., Skinner, R., Martin, J., & Clubley, E. (2001). The Autism-Spectrum Quotient (AQ): Evidence from Asperger syndrome/high-functioning autism, males and females, scientists and mathematicians. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 31, 5–17.
- Galloway, G., & Chirico, D. (2008). Personality and humor appreciation: Evidence of an association between trait neuroticism and preferences for structural features of humor. *Humor: International Journal of Humor Research*, 21, 129–142.
- Happe, F.G. (1995) The role of age and verbal ability in the theory of mind task performance of subjects with autism. *Child Development*, 66, 843–855.
- 長谷川藍子・中村雅子 (2020). ソーシャルメディアで変化する「お笑い」ビジネスとユーザーの利用と満足研究 東京都市大学横浜キャンパス情報メディアジャーナル, 21, 22–30.
- Hiervälä, S., & Hekama, K. (2011). Empathy, value, morality and Asperger's syndrome. *Scandinavian Journal of Psychology*, 52, 560–572.
- 伊藤大幸 (2009). 感情現象としてのユーモアの生起過程—総合的モデルの提案— 心理学評論, 52, 469–484.
- 神尾陽子・十一元三 (1998). 高機能自閉症における感情理解の過程に関する研究 児童青年精神医学とその近接領域, 39,

- 340-351.
- Lyons, V., & Fitzgerald, M. (2004). Humor in autism and Asperger syndrome. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 34, 521-531.
- Moran J.M., Rain M., Page-Gould E., & Mar R.A. (2014). Do I amuse you? Asymmetric predictors for humor appreciation and humor production. *Journal of Research in Personality*, 49, 8-13.
- Nagase K. (2019). The traits of autism spectrum disorder in the general population influence humor appreciation: Using the Autism-Spectrum Quotient and HSPS-J19. *Cogent Psychology*, 6, 1696000.
- 永瀬開・田中真理 (2015). 自閉症スペクトラム障害者におけるユーモア体験の認知処理に関する検討：構造的不適合の評価と刺激の精緻化に焦点をあてて *発達心理学研究*, 26, 35-45.
- 永瀬開・田中真理・川住隆一 (2014). 自閉症スペクトラム障害者のユーモア体験における意味性の評価：意味性の評価がユーモア体験に与える影響と意味性の評価の理由回答 *東北大学院教育学研究科研究年報*, 63, 103-117.
- 野村亮太・丸野俊一 (2006). 落語の演者が用いる語りの方略がおもしろさに与える影響 *笑い学研究*, 13, 13-23.
- 野村亮太・丸野俊一 (2008). 演芸状況でのユーモア生成プロセスのモデル化—構造方程式モデリングによる検討— *認知科学*, 15, 188-201.
- 岡本雅史・大庭真人・榎本美香・飯田仁 (2008). 対話型教示エージェントモデル構築に向けた漫才対話のマルチモーダル分析 *知能と情報*, 20, 526-539.
- Rawlings, D. (2013). Humor preference and the Autism Quotient in an undergraduate sample. *Humor: International Journal of Humor Research*, 26, 411-421.
- 清水裕士 (2016). フリーの統計分析ソフトHAD：機能の紹介と統計学習・教育、研究実践における利用方法の提案 *メディア・情報・コミュニケーション研究*, 1, 59-73.
- Terry, R. L., & Ertel, S. L. (1974). Exploration of individual differences in preferences for humour. *Psychological Reports*, 34, 1031-1037.
- 若林明雄・東條吉邦・Simon Baron-Cohen, & Sally Wheelwright (2004). 自閉症スペクトラム指数 (AQ) 日本語版の標準化—高機能臨床群と健常成人による検討— *心理学研究*, 75, 78-84.
- Wyer, R. S., & Collins, J. E. (1992). A theory of humor elicitation. *Psychological Review*, 99, 663-688.

付録 刺激動画の候補作成に使用したテレビ番組一覧

番組名	放送日	放送時間	放送局
M-1グランプリ 敗者復活戦 決勝に進む最後の一組を決めるのはアナタ！	2018/12/2	PM2:30~PM4:25	テレビ朝日
M-1グランプリ2018	2018/12/2	PM6:34~PM10:00	テレビ朝日
有吉のお饅頭が貰える演芸会	2018/12/7	PM11:15~AM 0:15	フジテレビジョン
Cygames THE MANZAI 2018 マスターズ	2018/12/9	PM7:00~PM10:24	テレビ朝日
エンタの神様 大爆笑の最強ネタ大連発SP	2018/12/22	PM7:00~PM10:14	日本テレビ
そろそろにちようチャップリン【グランドチャンピオン大会直前SP】	2018/12/22	PM11:55~AM0:20	テレビ東京
そろそろにちようチャップリン★お笑い王決定戦2018 グランドチャンピオン大会	2018/12/24	PM10:00~PM11:24	テレビ東京
ネタパレ 元旦2時間SP〈HAPPY NEW YEAR パラエティ祭り 2019〉	2019/1/1	PM0:45~AM2:45	フジテレビジョン
朝笑い！朝まで爆笑寄席2019	2019/1/1	AM3:00~AM5:30	テレビ東京
第52回爆笑ヒットパレード2019	2019/1/1	AM7:00~PM1:50	フジテレビジョン
笑いの王者が大集結！ドリーム東西ネタ合戦	2019/1/1	PM9:00~AM0:15	TBSテレビ
そろそろにちようチャップリン 【84歳親子VS不仲!?…次世代男女コンビSP】	2019/2/9	PM11:55~AM0:20	テレビ東京
そろそろにちようチャップリン 【今年きっと売れる！厳選イチオシ8組若手芸人SP】	2019/2/16	PM11:55~AM0:20	テレビ東京
そろそろにちようチャップリン 【内村が厳選！天才女芸人VS逆襲のネルソンズ】	2019/2/23	PM11:55~AM0:20	テレビ東京
そろそろにちようチャップリン 【大人気！チャラ男漫才VSキモキャラトリオ】	2019/3/3	PM0:25~AM0:50	テレビ東京
そろそろにちようチャップリン 【内村爆笑！大悟プレゼンツ坊主芸人ネタ祭り】	2019/3/16	PM11:55~AM0:20	テレビ東京

自閉症スペクトラム傾向が お笑いに対するユーモア体験の個人差に与える影響

Effect of Autism Spectrum Traits on Individual Differences in Humor Experience for Owarai

越 井 美 紗・関 口 貴 裕

KOSHII Misa^{*1} and SEKIGUCHI Takahiro^{*2}

学校心理学分野

Abstract

This study examined the effect of autism spectrum (AS) traits on humor appreciation for ‘Owarai’ (Japanese style comedy performance) among typically developing adults. For this purpose, sixty-three participants watched four types of Owarai videos, selected according to the combination of structural incongruity (conceptual level vs. schema level) and meaningfulness of the performance, and evaluated how humorous they felt each video was. The result showed: 1) For the Owarai with low meaningfulness and whose humor derived from conceptual-level incongruity, participants with high AS traits experienced less humor than those with low AS traits. 2) For Owarai with conceptual-level incongruity, participants with low AS traits experienced humor strongly as the meaningfulness of the Owarai decreased, and participants with high AS traits showed no effect of meaningfulness. 3) Owarai with schema-level incongruity and increased meaningfulness elicited more humor, regardless of participants’ degrees of AS traits. These results indicate that AS traits affect humor regarding Owarai, particularly that with conceptual-level incongruity, but do not affect humor for that with schema-level incongruity.

Keywords: autism spectrum traits, humor, structural incongruity, meaningfulness, Owarai

Department of School Psychology, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan

要 旨

本研究では、「お笑い」に対するユーモアの感じ方に定型発達者の自閉症スペクトラム（AS）傾向がどのような影響を与えるかを検討した。そのために、参加者63名に、お笑いが持つ構造的不適合のレベル（概念・ス

* 1 Tokyo Gakugei University Graduate School of Education

* 2 Tokyo Gakugei University (4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan)

キーマ)と意味性(高・低)の組み合わせによる4条件の刺激動画を見せて、それぞれの動画に感じるユーモアを評価してもらった。分析の結果、以下の3点が明らかとなった。1) 意味性が低い概念レベルのお笑いにおいて、AS傾向が高い人は低い人よりもユーモアを感じる程度が弱い。2) 概念レベルのお笑いでは、AS傾向が低い人は意味性が高くなるほどユーモアを強く感じるが、AS傾向が高い人は意味性の条件間で差が見られない。3) AS傾向にかかわらず、スキーマレベルのお笑いでは意味性が高くなるほどユーモアを強く感じる。以上の結果から、概念レベルのお笑いではAS傾向の高さがユーモアの感じ方に影響する一方で、スキーマレベルのお笑いにはAS傾向が影響しないことが示された。

キーワード：自閉症スペクトラム傾向，ユーモア，構造的不適合，意味性，お笑い

